

令和5年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和5年8月30日（水） 15時15分～16時45分
2. 会議場 松浦市役所 第4委員会室
3. 出席者

松浦市長	友田吉泰
松浦市教育委員会 教 育 長	黒川政信
松浦市教育委員会 教 育 委 員	平原章宏、前田弘子、吉住正和、氏山智美
〔事務局〕 教育総務課	教育次長兼 課長 土谷由子、課長補佐 宮本京平
学校教育課	教育次長兼 課長 松本政美
生涯学習課	課長 中野正和
文化財課	課長補佐 山口哲広
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 総合教育会議について
 - (4) 協議
 - ①部活動の地域移行と今後の見通しについて
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	<p>それでは、ただいまから令和5年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。なお運営要綱第3条に基づきまして、本会は成立いたしております。まず初めに友田市長が挨拶いたします。</p>
市長	<p>皆さん、こんにちは。令和5年度第1回松浦市総合教育会議ということで、皆様には日頃の教育行政に対するご尽力に、まずは感謝申し上げます、ありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議について、どういったテーマで皆様と協議すればいいかなと教育委員会事務局と話をいたしました。再来年は国民文化祭が長崎県であるということで、このことについても少し議論すべきかとも思ったのですが、これは教育委員会だけで議論するものではなくて、観光分野にも関わりますし、市役所でいうなら政策も入るということで、総合教育会議で議論するというのは少し違うかなと思ひまして、現状、気になっているという点で、「部活動の地域移行について」を、改めて皆様と共有できればと思ったところであります。以前からもそうなのですが、とりわけ昨年ぐらいから、松浦市内の小中学生、高校生は、スポーツ・文化の面で非常にレベルが高い選手、生徒たちが増えておりまして、全国大会への出場報告に多くの子ども達が来てくれます。それだけ、松浦の子ども達は、レベルの高い競技や文化に馴染んでいる。その原点は部活動であったり、社会体育であったり、地域の文化活動であったりだと思います。これを、今後地域移行を行っていくということで、様々な課題が生まれてきているのかなと思ひます。その課題について共有いただくとともに、一方で、この少子化の中で、子どもたちがやりたくても</p>

	<p>やれない、やるために域外に行かなければいけないという課題も生まれてきております。どうすれば子どもたちに、地域の中でやりたいスポーツ、やりたい文化に接することができるのか、こういったことを考える上で、地域移行は重要だと思っておりますし、進めるには様々な課題があるとも思っておりますので、教育委員の皆様方とそういった点で議論を重ね、まずは課題の共有をするとともに、今後の施策に生かしていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>続きまして、黒川教育長からご挨拶お願いいたします。</p>
教育長	<p>教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。 本日は、本年度第1回目の総合教育会議を開催していただきまして、誠にありがとうございます。本日のテーマとは少しずれますが、7月23日から25日にかけて、鷹島で「わくわく!水中考古学体験講座 in 鷹島」が行われました。全国から20人が参加、15人がオンライン参加をしましたが、私も3日間とも参加させていただきました。今年度の参加者を見ていますと、講義が終わった後の先生方へ質問を熱心に行っていました。昨年度も一人二人は行いましたが、今年は質問する方が多くて、水中考古学に熱心な学生や自治体職員がいるなあと思っておりました。昨日は市内校長研修会を開催いたしました。25日に学校も無事に二学期がスタートをきれたようでございます。本日は、部活動の地域移行と今後の見通しについてというテーマで意見交換をするようになっております。様々な課題もありますが、生徒の事を第一に考えたものになるように思っているところです。有意義な時間となりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>それではさっそく協議に移らせていただきます。規定により議長は市長が務めるとなっておりますので、市長、よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、まず事務局の方から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>資料をお配りさせていただいております。まず、中学校運動部活動の地域移行の背景を知っていただくということで、資料1をご覧ください。県体育保健課から各市町の教育長に配布された、長崎県の運動部活動地域移行推進計画の初版本でございます。その初版本の①と書いてあります、「はじめに ～部活動の地域移行へ向けた背景と経緯～」、全部読んでいただいてもいいのですが、要は3行目にあります、「一方、近年の部活動は少子化による部員不足」、これが一点目の大きな背景にあります。二点目が「競技専門性を有した教員の不足」、三点目が「学校の働き方改革」、この大きな三点が大きな課題、背景となって部活動の地域移行という話がでてきたということでございます。実際には、本県も中学校の部活動の数が少し減少している状況にある。本市も数がかかなり減ってきている状況にある。続いて資料の③現状と課題ということで、先程申しました「少子化による部員不足」ということで、例えば生徒数減少による部員不足によって大会出場ができない、チーム編成ができずに大会に出</p>

ることができないケース、そして「専門的指導可能な教員不足」、競技未経験、専門外の顧問の負担感や、教職員減少による複数顧問配置の困難性ということで、実は、働き方改革において、部活動が非常にブラックだというイメージを持たれているわけです。従って、一つの部に二人の教員を付けることによる交代制にすれば、負担が減るという体制が望ましいとされているのですが、実情は、小規模校である松浦市の体制では顧問二人制というのは厳しい状況にあります。続いて、今後のスケジュールについてですが、④をご覧ください。長崎県が示しております、地域移行のスケジュールでございます。令和5年度までは、色んなところを調整していくというところがございます、令和6年度から、段階的に土曜日、日曜日の部活動を段階的に地域で行う形で進められております。この表の欄外の※に「離島半島地域は、他の地域と比べて時間を要することが見込まれるが、準備が整った市町から随時進める。」これを理由に少しゆっくり進めていきたいと思っております。続いて⑤のイメージ図でございますが、「中学校の休日の地域移行とは」、ということですが、平日の部活動は令和8年度までは今まで通り行うとなっております。土日、休日の部活動は徐々に学校で行うのを減らしていきますと、代わりに地域で行う土日の活動を徐々に増やしていきますというふうに書いてあります。続いて、休日の部活動というのは、国・県から色々なパターンが示されておりまして、全部で12パターンあるのですが、その中の⑩のB-IV、保護者会を中心として、同じ中学校同士の部活を、教職員が兼職・兼業で見るパターン、あるいは保護者が見るパターン、あるいは外部指導者が見るパターン、こういったイメージを中心としつつ、B-IIIのスポーツ協会が見るパターンも想定されるかなというところです。もう一つが⑫の近隣高校との連携ということで、実は吹奏楽部は既に松浦高校の吹奏楽部と合同練習会を結構重ねております。今度の水軍まつりも一緒に出るのではないかと話を聞いております。ゆくゆくは高校、または地域にある吹奏楽団との連携というのも含めて、こういった形ができるのではないかと。そういうことをイメージして少しずつ進めていきたいと思っております。続いて、松浦市の地域移行について、資料2-①をご覧ください。今、松浦市の部活動は、資料の地図に各中学校と部活の名称を挙げておりますが、運動部で7種目ございます。野球、ソフトテニス、バレー、バスケ、卓球、陸上、剣道。文化部は吹奏楽、美術に、ボランティアまで入れて3つあります。これを表の右下に「松浦市の地域移行に向けて」という枠があるのですが、松浦市部活動あり方検討委員会を立ち上げ、今後の松浦市の部活動の在り方について検討していきます。検討会では、令和5年度末までに方向性を、令和6年度末までに運営方法まで検討していきます。というのを目標としております。それまでに受け皿づくりの検討に入っていきたいと思っております。続いて資料2-②、大まかな松浦市のスケジュールはどうかといいますと、下段の方の表になります。休日（土、日、祝日）のところですが、令和5年度～7年度までは現在の部活動を継続してまいります。で、7年度は段階的に休日の部活動は月一回程度の合同練習という形で進めていきたいというふうに思っております。令和8年度以降は完全に地域（スポーツ）活動を重視していく方向として、最終的に

	<p>は令和9年度が完成とされているところでございます。なお、平日は今まで通り、学校の部活動を継続してまいります。その中で、現在アンケートも実施させていただいております。今、地域や先生たちの中で、ボランティアとして、また、部活の指導員として、やってもいいよという人がいないかなという思いも込めてですね、アンケートをさせていただいているところでございます。続いて資料3でございます。先ほどの松浦市の計画の中にもありました、松浦市部活動の在り方検討委員会運営要領で、7月10日に立ち上げました。3ページが検討委員会委員名簿でございます。代表の委員長が年徳谷辰也 志佐中学校校長、副委員長に森田秋満 鷹島町体育連盟会長を選出し、現在アンケート調査を行っているという段階にきております。そのアンケートの中身ですが、4ページ以降になります。各小中学校校長に昨日説明をいたしまして、児童・生徒、教職員、それから保護者にアンケートをすると同時に、松浦市内のスポーツ競技団体関係者にも各競技団体の長、あるいは事務局長を通して、アンケートの依頼をさせていただいたものでございます。以上、駆け足で説明させていただきましたが、松浦市の部活動地域移行の現状について報告させていただきました。</p>
市長	<p>生涯学習課長、お願いします。</p>
生涯学習課長	<p>私の方からは、お配りいたしましたA3の資料についてご説明させていただきます。市内の体育施設と、その使用料及び規定の減免措置、割増措置、それから現在特例措置をとっているものがございますので、それらを一覧表にしたものでございます。まず、体育施設の設置及び管理に関する条例の対象施設として、スポーツセンターから野球場まで規定されております。その料金の内容ですけれども、スポーツセンター、及び武道館につきましては、占用の時、それから練習の時、それぞれ①②③の時間帯によって料金が決められております。鷹島スポーツ・文化交流センターですけれども、入場料を徴する、徴しない、それと時間帯によって料金を設定しております。鷹島スポーツ・文化交流センターの場合は、それぞれの競技で使用した場合の料金も記載しております。それから、鷹島体育館、田代体育館、大崎体育館、養源体育館、旧学校施設として使われていたものが、市の体育施設として管理をしているものです。それと野球場となっております。次の減免措置のところですが、市内の高校及び小中学校在籍者は1/2を徴収することと規定しております。割増規定につきましては、市内居住者・市内勤務者以外は10割増しという料金をいただいております。スポーツセンター・武道館につきましては、9～12時、12時～17時において、照明を利用したときには17時以降の料金をいただく、としております。鷹島スポーツ・文化交流センターにおきましては、冷暖房使用時には50%増しと規定しております。そして減免の特例措置に関してですが、まず鷹島町スポーツ少年団バレーボールクラブについて、鷹島スポーツ・文化交流センターを利用しておられるのですが、以前は学校体育館を使っていたのですが、ネット支柱が設置不可という不具合がございまして、この施設を使うことになったのですけれども、社会体育で他のチームが学校施設を同じよ</p>

	<p>うに利用する場合には全額免除となる事から、体育館の都合でスポーツ・文化交流センターを使うこととなった経緯から、同様の考え方で、全額の免除をすることとしております。ただし、当時の定時練習としていた月～金曜日だけの減免としております。これは平成29年9月1日から施行しております。次に、鷹島少年剣道チーム、田代少年剣道クラブ、養源少年卓球クラブについてですが、学校体育館が学校統廃合により、市の体育施設となったために、他の小学生社会体育団体等が学校施設を利用する場合には全額免除であるため同様に全額免除とするとしてところでございます。これも当時の定時練習日のみとしております。次に夜間照明施設に関するものでございます。夜間照明施設管理条例対象施設が、上志佐小学校、御厨地域運動場、星鹿地域運動場、鷹島総合運動公園運動場、テニスコートでございます。次に市民運動公園スポーツ施設管理規則ですが、ソフトボール場とテニスコートの照明施設になります。料金は記載のとおりで、減免措置、割増措置についても、先程と同様でございます。特例措置ですけれど、平成20年にソフトボールを中心としたクラブ活動の中で、子供たちの健全育成、心技体の鍛錬、競技力の向上を目的として、減免を90/100としておりました。その後、令和4年2月、令和3年度ですが、他の体育施設を使用する小学生社会体育団体等が、公平性を保てていないとの意見があったことから、段階的に排除していくことを決定しております。令和4年度が90/100、令和5年度が11、12月を90/100、その他の期間が規定通り50/100、令和6年度以降は規定通り50/100というふうにしたいということでございます。経緯を記載しておりますが、平成20年時点では、小学生社会体育はソフトボール競技が盛んでありましたが、時間の経過とともに、社会体育では他の競技が行われるようになり、競技人口も増えてきました。これを背景に屋内実利用者との公平性が保たれていないというご意見が出て、これを解決するため、特例措置の段階的排除を行い、こういった措置を決定したものでございます。説明は以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>今、学校教育課、生涯学習課から部活動の地域移行についての現状、そして、その活動拠点となる運動施設等の料金の設定について説明があったところでございます。教育委員の皆様の中には、社会体育で指導いただいている吉住さん、また、社会体育でお子様活躍されてきた氏山さん、それぞれ、現場の事情をご存じの方がいらっしゃいます。もう既に吉住さんは、地域移行を実施していただいている。氏山さんは、地域移行をされた中での活動をこれまでもされてきたということでございまして、それぞれのお立場から、現在、学校の先生方に委ねられている部活動を地域に移行するうえで、これが大きな課題かなとか、そういったお気づき点があれば、お聞かせいただければと思います。吉住さん、いかがでしょうか。</p>
<p>吉住委員</p>	<p>生徒数が少なくなった現在の部活動を見えていますけれど、部活動数が多いから団体競技ができなくなっている。大体は校長が部活動を決めますけれど、自分の時に廃部の部を作りたくないとの校長も言われ</p>

<p>市長</p>	<p>る。この地域は昔からやっているから、バレー部は昔からの伝統だからとか言われて廃部に出来ない。しかし、鷹島の現状では団体競技をやるには生徒数が少ないのです。</p> <p>確かに、子どもたちの数は減っていくにも関わらず、子どもたちのやりたいスポーツ等はどんどん増えてきている。私たちの小さい頃のプロスポーツといえば野球ですよね。野球以外にプロスポーツのイメージがないわけですよ。それが、Ｊリーグができてサッカーがあり、今まさにワールドカップが開催中ですけどバスケットボールがあり、県内にもＢ１に昇格するチームが生まれている。子どもたちの身近なところにプロのスポーツクラブがあって、子どもたちの憧れというものも以前に比べてでてきている。でも子どもたちの数は減っている。そういった中で、続けて行くのが難しい。学校現場としては伝統ある部活動をやめさせることは難しいというお話ですね。氏山さん、保護者の立場からいかがでしょうか。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>剣道は、月・水・金に田代体育館を使っているのですけれど、指導の先生たちも仕事が終わってから来てもらう、しかもボランティアです。子どもも少なくなってきた、ある時は子どもより先生の数が多い日ともあります。マンツーマンで教えてもらうなど内容の濃い練習はできているのですけどね。実際、今年は御厨中学校も剣道男子は団体に出不着ななかった。今度の新人戦は女子も出不着。来年一人入れれば女子は出られるが、本当に人数が少なくなっていて、教える先生達も経験者ではないので大変だと思う。何も知らないでやり取りをするので、行き違いも出てくる。そこに剣道協会の方が入って助けたりして、何とかできてはいるけれど、剣道の場合は、地域移行するなら松浦市全体で剣道部を集める形をしないと出不着な状態。先生たちの負担も減らせるからいいのかなとは思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>教育長、校長経験者として、学校現場の実情としてはどうでしょう。</p>
<p>教育長</p>	<p>確かに、子どもは少なくなっているけれど、子どもがやりたいと思えるものはどんどん広がっている。私たちの小さかった頃は本当に野球だけで、私もそうだったのですけれど。御厨小学校で言えば、野球というかソフトボールがあり、サッカーがあり、なんとか二つできていたのですけれど、我が子が通っていた今福小学校は、両方あったのですけれど、先にサッカーがなくなり、調川と合同でやったのですけれど、それもなくなり、ソフトボールがかるうじて残っていたのですが、それももうなくなって。でも、やりたいという子どもはいるので、強いチームを求めて市外に出ていくという流れになってきているのですね。市内中学校の野球部でみると、志佐中学校が休部になっている。これがもの凄く現状を物語っているなと思うのです。御厨・志佐・調川・今福の合同チームと福島中学校が試合をするという、そんな時代かと現実を突きつけられる思いです。やはり松浦チームとかを作らないと。野球をしたいという子は松浦を出て行かなければいけないといった状況はかわいそうだなと</p>

<p>市長</p>	<p>思います。そのための方策をとりながらやっていかなければいけないな と思っております。</p> <p>野球はこれまでも「西松ボーイズ」とか、「玄海ボーイズ」、糸島のチ ームとか、遠いところで中学校から硬式野球をしている子供たちがたく さんいる中で、昨年、松浦も硬式野球チームが新しくできて活動を開始 されていますよね。当然指導者がいらっしゃるし、熱心な保護者もいら っしゃるから、そういった環境が整えられていくのですね。先ほど、学 校教育課長から話があった、指導者の方々の掘り起こしというか、そう いった方々からご協力いただけるのであれば、市内に少しずつ整って いくのかなと思いますね。実際にミニバスケットボールとかは、完全に地 域の方の熱心な指導で育って行って、その子どもたちが今大活躍してい ますよね。そういった環境をこれからどう作っていけばいいかというこ とだろうなと思っています。前田委員、いかがでしょうか、実際に学校 で生徒たちの部活動をしている姿を見てこられて、これから地域に移行 するという上での、ご懸念とかあればお聞かせ願えませんか。</p>
<p>前田委員</p>	<p>私も60歳ぐらいまで部活動に携わっていたので、主にはソフトテニ スだったのですが、時にはバレーボールだったり、水泳だったり、柔 道であったりとか。そういうのは指導の先生がいらっしゃらないなら、 社会体育で指導するというので、平日は見えてくださいということ でしたので、現場に行って走ったりしているのを見ていたりしていま した。本音としては、子どもとのコミュニケーションが部活動の顧問の方 が、担任より生徒指導、生徒理解がうまくいく。今の中学校の状況はわ かりませんが、私が教員をしていた時は、教員の中で女性は2、3人だ ったので、そういう中で、中学生に授業をしていくというのは非常に厳 しくて困難で、やっていかなければいけない時代だったのですが、 その中で部活動の子どもたちが、よく手を挙げて発言をしたり、男子を 抑えてくれたり、そういう面で部活動というのは、目に見えないところ で教育的効果があったので、若い女性として入った時に非常にありがた かった。それが年齢を重ねていくと、家のライフスタイル、ワークス タイルとかみ合わなくなっていく。うまく回すことができずに、今言われ る「ブラック」というふうになっていったのだなと思います。部活動が なくなった中学校ってどんななのだろうって私からは想像できなくて。 自分も中学2年生の時にソフトテニスで優勝して、そして3年生の時も、 さあ優勝するぞ、と思ったら30分しか練習できなくて、先生たちに抗 議したり、土・日に別の場所で練習したりしたのですが、結局3位で、 それがいまだに腹立たしくて、高校進学して他の中学校の子に聞いたら、 自分たちは6時まで練習していたよ、と。なんだったのだろうという私 の疑問だったのですが、50歳ぐらいにその学校に行きまして、そ ういうことだったのかとその時の謎は解けたのですが。それほど、部活 動というのは中学生にとって大きな存在だし、保護者にとっても部活と いうのは大きいだろうと思うし、学校の活性化にも繋がっている部分も ある。先生方の働き方が大変になっていますので、地域移行がいいだろ うとは思いますが、学校の部活動そのままの地域移行は難しい。旧松浦</p>

	<p>だったら一つにまとまってできるかもしれないけれども、島嶼部でソフトテニスの指導者をとったらいらっしゃるのか。私の時に一緒に指導した方がいらっしゃいますけれど、70ぐらいになられている。そうした時に、例えばソフトテニスクラブの方が旧松浦地域にいらっしゃって、土曜日に出張みたいな形でいらっしゃってということならできるかもしれないなど。ただ、平日も移行した場合はどうなのだろうと思って。バスケットとか、サッカーとか、硬式野球とかは市長さんが言われた通り、伊万里とか唐津に移動していますし、いったいどういう風に地域移行していくのがベストなのだろうと。人材が、今の部活動指導者にどれだけなりうるのかなと。65、70歳近くまでみなさん働かれている状況もあったりしますし、若い方がどれだけ現場に降りてというか、土、日だけだったらどうにかなるかもしれないけど、どうなるかなと懸念したり、指導者がいるから地域クラブができますよ、平日は学校の今の部活動をやっていて、土日のどちらかは地域でできたクラブに行きましょう、でも強制ではないとなった時に行かない子もいるかもしれないと思ったりして、色々考えたりするのですけれど、難しいなど。今、指導されている方たちとか、学校の先生とか、企業だとか、クラブだとか、色々研究されていたりしていらっしゃるし、コンプライアンス研修とかも必要になってくるだろうし、色々考えているところですけど、課題は指導者だろうなと思うところです。地域移行はした方がいいと思います。そうした時にうまく回れば、小さいときから大人のおじいさん、おばあさんまで、コミュニティがうまくできるかもしれないし、市の活性化に繋がることもあるかもしれないと思ったりするわけです。</p>
<p>市長</p>	<p>指導者をどう開拓していくかということと、多分、どんなに指導者を発掘しても域外に委ねなければいけないスポーツも当然出てくると思うのですね。例えば、市内にもそれなりのスポーツクラブがあります。だけど、佐世保市に強豪チームがあって、そっちに行きたいという子ども達のニーズもある。だから、元々ない、あるけど奪い合い、そういった課題もでてくるかなと思いますね。平原委員、市内の体育連盟の役員をなさっている多くの方が市役所にお勤めの方ですよね。すべてではないのですが、事務局をもっているというのが多いわけですね、実際にずっと市役所にお勤めしていた中で、そういった方々の協力がなければ、これも出来ないのかなと思うのですが、いかがでしょうか、公務と併せて担っている皆さんの負担感というのをお感じになっているとするなら、そういった点も含めて、この地域移行について、ご意見をいただければと思います。</p>
<p>平原委員</p>	<p>市長もおっしゃっていただいていたのですが、市役所というのは、もうそこになりそうな雰囲気さえありそうな気がします。言われているように、「地域移行」ってなにか格好良さげですが、実際、出来るという想定を、県、国辺りがしているのかというのが少し疑問なのです。極端に言うと、中学の先生なんかは体育の先生は標準的なスポーツをさせてきているから、休日の部活動で限定していながらも、平日やっている先生が、日曜日に保護者に頼まれてボランティアでやるというような場面が</p>

<p>市長</p>	<p>出てきそうな感じがしています。役所の職員の方もかなり高齢な方もいて、小学生、中学生とのコミュニケーションの取り方も含めて、どっちが指導者かというような、そういう場面も出てきそうな気がします。地域移行はできたらいいねとは思うのですが、あまりにもハードルが高すぎるような気がしております。</p> <p>松本課長から説明があった部活動の在り方検討委員会の中でも、同じようなご意見が出るのだらうと思うのですが、今後アンケートをとるといって話になっておりますが、前段的に色々な話があって、まずはアンケートとなったのだと思うのですが、その辺りの経緯を。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>この会合を開くときに、非常に紛糾するだろうと思っていたのですが、前もって根回しをしてこういう方向で進めるという話はしてありました。まず一つは、地域移行していく背景について、県から説明に来ていただきますと。もう一つがアンケートを用意していますと。アンケートの目的は二つあって、一つは地域移行することを周知しなければいけない、その為にはアンケートが必要、もう一つが受け皿となる指導者を掘り起こさなければいけない、その為にアンケートをします、その為の協議をしますということで、何とかテーブルには着いていただきました。最終的にはアンケートを実施する上で、「これじゃあ遅い、もっと早くやらなければ。」という意見から「いやいや、ゆっくりでいい、地域移行は簡単にはいかない。」という慎重論、両方ありました。私達としても、先行してやっている長与町の形ではできないということはわかっているので、長与町も色々と課題を抱えながらやっておりますが、私達も色々な成果と課題を含めて、先進地の状況を見極めながら、慎重に進めていきますと説明したことで了解を得て、今回アンケートまでいったところでした。先ほど言われたように、これまで部活動が学校において果たしてきたこと。これに対しては、皆さん同じように経験してこられておりますので、思い入れが深いのです。「中学校はやはり部活動さ」という考え、ここを切り替えて行かないといけない。これが一番のテーマだろうと思っています。まずは、土曜・日曜日は子どもが部活をするということから離れるということが原点にあって、それでも、土曜も日曜も部活動をしたいという場合の受け皿を作りましょうと。その考え方に立たないと、ちょっと難しいですね。今までのように、土・日は当たり前のように部活動をするという考え方なってしまうと、この話の前提が崩れてしまうのです。土曜日、日曜日のご家庭に、地域に返します。部活は学校がある平日にやります。この考え方から進めていかないと、なかなか地域移行は進まないかなとは思っています。で、その上で「松浦クラブ」みたいなチームを任せられるような指導者を私たちは求めています。そういうことのお世話をしていかなければいけないし、一番は、その方をどうやって雇用するか、謝金を払うかとか、そういった問題もある。国、県、市の補助金を使った部活動支援員という制度がこれまでもあったのですが、それがいま途絶えた状態でありましたので、そこを復活して、関わっていただく方を増やさなければいけないかなと思っております。少しでも興味を高めて本格的な雰囲気になっていけるような取組を進めたい</p>

<p>市長</p>	<p>など思っております。</p> <p>市役所に全国大会への出場ということで、出場報告に来てくれる子ども達の大多数は、社会体育、クラブチームの子どもたちなのですよ。ですから、それだけの指導者の方がそこにいらっしゃるのですよ。もちろん、志佐中のソフトテニス部みたいに、部活動で全国大会に行く子ども達もいます。すべてが社会体育ではないのですが、冒頭に教育長がおっしゃった、第一は子どもたちのためだと考えた時に、やはり、そういった指導者の方々の、ある意味厚意というか、お願いせざるを得ない部分、ただ、それをすべて厚意でお願いして、ボランティアでというわけにはいかなくなっているのが、この地域移行のお話なのだろうと思うのです。そうすると、一定程度、部活動以上に、部費というものを払ってもらわなければならなくなると思うのです。この辺りの経済的な負担と、子ども達のやりたいという思いをどう合わせて行くのか。それと、仮にクラブチームが松浦に出来たとしても、そこへの移動ですね、殆どの社会体育で成績を残している子どもたちの多くは、親御さんが毎日一時間ぐらいかけて、往復だと二時間ぐらい、練習に連れて行っておられる。それだけの負担が伴っているわけですね。そういった部費の問題、指導者の問題、それと移動に係る負担の問題、こういった点ですね、何かお考えがあれば、是非お聞かせ願いたいと思うのですが。吉住さん、いかがでしょうか。</p>
<p>吉住委員</p>	<p>私はもう十何年、陸上を指導してきていますが無報酬です。保険とかユニフォーム代とかの分だけを徴収しているだけです。もし、これを本当に社会体育に移行して、部費、もしくは月謝を徴収するとなると、指導者に大きい負担がかかると思います。そうすると、本当に教えていけるのか。実際に、私も仕事をしながら指導しているわけですが、本当に仕事を休まなければいけない。そうなった時にどうするのか。実際に今から移行していきますよね。指導者にいくらか報酬をあげるわけですが、平日の部活動、5時に仕事が終わればいいわけですが、残業とかあったらそれができなくなる。必ず5時に来てくれるという指導者はいない。指導者の負担がもの凄くなって、大変になる。だから、私は部費をとらない、すべてボランティアでやっています。指導を始めた最初の頃は、保護者も唐津の陸上競技場に行きますよとなれば、熱心に連れてきてくれていた。今はそういうのはほとんどない。今、社会体育に先行して移行しているところが、長崎市とか、時津町とか川棚町とかありますが、今実際に問題点が出ているのですよ。どういった問題かということ、リレー競技は中体連が各学校からの出場しか認めていない、クラブチームのリレー参加は認めないということになっていますよね。各個人種目はいいけども、リレー競技は絶対に駄目となっています。それで、長崎市の社会体育チームの指導者から聞いたのですが、その指導者は陸上専門なのですが、今年長崎市で九州中体連がありますが、中体連会長から言われたことが、水泳の審判に入ってもらえる可能性がありますよ、おかしいですよ。それを聞いて、まだ中体連とクラブチームには壁があるのかなと思いました。</p>

市長	<p>やはり、部活動はこうあるべきというイメージが皆さんの中にあるでしょうから、そういったところを崩していかないと。それから、吉住委員がおっしゃった、部費、あるいは月謝という形で費用を取るという形になると、果たして、それができるのかどうかですね。ボランティアだからこそ、ある程度融通が利く。でも、本当に部費をもらってとなると、専属になってしまいますよね。スポーツクラブのコーチのような扱いにならないと難しいですね。そこまでの人を自治体で発掘するとなると難しいですね。</p>
吉住委員	<p>佐賀にも進出している福岡の会社があるのですが、そこは現役の選手を指導者として迎え入れている。自分たちも競技しながら、子どもたちも指導しているのですが、月謝が高い。そして、一種目に対して何人って出場する人数が決まっているのですね。結果、自分の子どもは出してくれないという不満が出てくる。速い子を優先するからどんどん差がついてしまうので、今、生徒は抜けていっている。</p>
市長	<p>勝利至上主義みたいなことが出てきている。</p>
吉住委員	<p>そういう部分でも難しいことだなと思います。</p>
市長	<p>氏山さん、部費・月謝、先のアンケートにも、どれくらいまでならいいかというのがあるのですけど。</p>
氏山委員	<p>うちは、部費は千円ですけど、それは大会に参加するためのお金です。指導者も、毎回この人が来るというわけではなく、仕事が早く終わって来られる人もいるし、練習は6時から始まるのですけど、7時まで仕事で、それから来られる先生もいるなど、まちまちなので、謝礼金を払うとなると、誰にする？という感じで、決められないと思います。</p>
市長	<p>今、社会体育でやられているところで、例えば、ボクシングジムはボクシング「ジム」なんで、ジムとしての経営があると思うのですよね、ですから、ちゃんと月謝をもらわれている。いわゆる習い事と同じような位置づけで、指導してもらえるスポーツって、サッカーとかですか？</p>
学校教育課長	<p>サッカーも二種類ぐらいあるのですね。長崎ではV・ファーレンを頂点とした、クラブ参加のチームは、かなりお金が高いです。もう一つは、地域ごとにあるクラブは、値段が安いですが、お金はとります。専門のコーチがいたりして、人件費に使われていたりしているという話です。</p>
市長	<p>そういう課題があるということですね。加えてもう一つ皆さんに議論していただきたいと思っているのが、先程、生涯学習課長の方から、それぞれの施設の使用料の話をしておられました。クラブ活動やるのは100/100の減免、でも社会体育は50/100はいただきますよと、というところがありますよね。この部活動の地域移行というのを、この社会体育</p>

	<p>というのをどう位置付けていくのか。地域移行した部活動というのは、私たちが従来から言う社会体育のことだから、今までと同じという捉え方をするのか。いやいや、これは部活動から移行させたものだから、今までの部活動と同じ取り扱いでいいでしょうか、この辺りをどのように整理すべきなのかという課題としてあります。というのは、先般の議会でもですね、子ども達のそういったスポーツに色々な成績を残したからこそ、減免をもっとやってくれという話がありました。そういった中で、社会体育との公平性を保つためには、この水準に合わせるしかないということで、50/100に移行していきますという話をしたのですが、その辺りをもっと減免して欲しいというお話があったのです。その辺りについて、皆様どうお考えでしょうか。施設を維持していくには、費用が必要で、受益者負担という意味での費用はご負担いただくというのは、必要なのだろうと思うのです。ただ、土日にクラブチームでやりますという時、今までの部活動と捉えて行くのか、この辺りも今後の課題になるのかなと思いますね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>よろしいですか。確実に移行期というものが生まれると思っております。例えば、各中学校の野球部が、御厨中・志佐中・調川中・今福中において、それぞれの中学校の野球部同士の保護者会が一緒になって、松浦市中学生野球連盟というのを組織してもらいます。で、月に一回合同練習をする、これは部活動の延長だと捉えます。その次にあるのが何かというと、松浦市野球クラブというのができたといいます。これはもう社会体育に移行した形になります。これは、保護者の手から離れてとのことになるだろうから、こうなると完全に社会体育に移行した形になります。ここの移行期のところをどうするかという話になるのだろうというイメージを持っております。先ほどのイメージ図でいいますと、⑩番の中の教職員の兼職兼業、こういったところが出てくる場面のところまでは、部活動の延長ということになるだろうと。保護者会の組織による合同練習会に先生に来てもらって、兼職兼業を発令してやるパターン、これがしばらく続くだろうと思っています。その後、今後は保護者が外部指導者を雇ってやるパターン、B-4番です。このパターンになってくると社会体育となる。こうなるとお金を徴収してやらなければいけないというふうに考えています。想定としてはそう思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>その辺で整理するしかないというところですね。子どもたちの移動の件はどうすれば解決できるでしょうか。放課後、それぞれの学校で出来ていましたから、ほぼ移動はないわけですね。氏山さんのように剣道は田代まで行かなきゃいけないというのはあったとしても。今後、どこかに集まってやりましょうという時に、平日は基本的に部活動なので学校でやる。でも、土日にやりましょうという時、部活動の地域移行で例えば、志佐の運動公園でやりますので、今福、調川、御厨から来るときの移動というのは、基本は保護者ということになるのですよね？</p>
<p>学校教育課長 市長</p>	<p>保護者ですね、はい。 そうですね。併せて、福島・鷹島と松浦地域の子どもたちは、離れて</p>

	<p>いるがゆえに、毎回週末にチームを一つにしてというのは難しくなりますよね。そういう時に先程吉住さんが言われた、鷹島・福島にはないというものをしたいとなった時、逆に松浦にはなくて、福島・鷹島には今後生まれてくることもあるかもしれない。そういう場合をどのように整理していくのか。松浦の地理的な状況で解決はできないのかどうか。今、陸上は合同練習とかはどうなのですか。</p>
<p>吉住委員</p>	<p>たまに、唐津で壱岐とかを呼んでしていましたが、最近はあまりないです。市内での合同練習は、呼ばれたら行く感じですが今はないですね。一番良いのは、松浦高校に来ておられる体育の女性の先生が長崎県の幅跳び記録保持者ですので、トラックとフィールドを作ってくれないかとお願いされていて、来年には立ち上げると聞いております。そうしたら松高と練習ができるよねと話したら、松高に来てくださいということなので、つまり、環境を整えてくれたら、高校生との練習会も出来るのです。そういう先生がいるよとなれば、保護者も連れて行くのではないかなと思います。だから、その先生に10年ぐらいいてくれと頼んだのですけれど。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほどの説明の中に、令和8年度ぐらいを目途にして休日は地域に移行していく。ただ、その後も平日は部活動でとなっていますよね。その時に、先程も指摘があった中体連の大会と、どう整理していくのか。平日の部活動でやりたいのだけれど、部員が足りないので平日も合同でやらなければチームとして成り立たない。平日は自主練習をして、休日に地域移行で一つのチームとして練習する。松浦クラブとかを作ってくださいね。その松浦クラブで中体連に臨むとなるのですか？</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>現在、中学校には部活はない水泳とか柔道とかは、市の中体連の推薦という形で県大会出場枠を作って出場しております。県の中体連が認めている規定があるのですけれど、例えば、野球チームは、御厨中・志佐中・調川中・今福中の合同チームが単独チームの福島中に勝てば、合同チームとして県大会に行けるのです。ただ、合同チームは計18名を超えたらいけないという規定があります。ですから、例えば福島中を合同チームに含めたら18名を超えるので、出場はできなくなります。仮に今後松浦クラブとなった場合、学校の代表チームではなく、クラブチームという扱いになると思います。あくまでも学校を主体としたチームを中体連は引っ張っていくだろうなという予想はしています。もう一つ大事なことがあります。「何故、学校で部活動を行うのか。」という大前提があります。それは、学習指導要領に部活動の明記があるからです。今、中教審の中で、部活動の明記をどのようにするかという検討がなされています。おそらく外れていくだろうと思われまいます。そうすると、学校から休日だけではなく、平日の部活動自体もなくなる可能性が高くなるだろうと思います。それがいつになるのかはわかりませんが、そうなると中体連はどうするかという話になってくるだろうと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>子どもたちにとって何がベストなのかという話が、どんどん大人の事</p>

<p>教育長</p>	<p>情になってきますね。でも、大人がしないといけないのですね。だから、子ども達が、スポーツ・文化の部活動をやって、そこで、学問とは違う分野での学びとか、成長とかがあるわけですよ。せっかくやるならチームで勝利を喜ぶとか、そういったものを経験させなければいけない、それが大きな成長に繋がるから。でも、それがルールで入れないから駄目ですよというのは、地域移行を進めるのであれば、その辺りを政治の分野で整理をしなければならない課題かなと感じましたね。</p> <p>部活動が学校の中で果たしていた役目。その一つとして生徒指導があったと思うのです。この部活動というものが、あまりにもやりすぎたというところもありましたよね、勝利至上主義というか、教員の指導で罵声を浴びて自殺したとかいじめとか。そういったことがあって、もっと安心・安全に場所で部活動はやらなければいけないということがでてきた。そうした時に、地域移行ということが出てきて、一般の指導者の方も含めて不安に思われるところが生徒指導面です。もし、自分が指導している中で、友達同士のいざこざがあったとか、そうなった時にどう対応しているのか。それには、研修などを開いて、やっていかなければいけないと思うのですけれど、そういった生徒指導面のハードルも高いなと思います。さっきから、指導者の確保が大事だというのがありますが、やはり都会と田舎では違う。都会では中学校の先生に頼らなくても、長けた指導者はたくさんいると思うのです。田舎となると、先生方に頼らなければ、なかなか難しい面もあると思うのです。ですから、先程学校教育課長が言いましたけれど、兼職兼業というの、しばらくはやっていかなければならないと思います。もちろん地域に熱心な方がおられれば、是非関わっていただきたいと思っております。それと、謝金の問題。私もただではお願いできないとは思っているのですが、実際に謝金をもらうとなれば、その分責任は重くなりますので、ボランティアのままの方がいいのかなとか。ただ、運営費は必要ですので、部費という形でとらないといけないと思っております、移動の負担もそうですしね。それと、平日は部活動で、休日は地域活動という関係性ですね、子どもたちが平日は学校の先生からこう指導されたが、土日は別の指導をされたりしたとか、というのがないとは限りませんので。いろいろなことが考えられますけれど、これをどううまくやっていくかというのが全体的な課題だと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>メジャーなスポーツが増えれば増えていくほど、それをやりたいという子どもたちのニーズは高まっていく。しかしながら、その指導者が身近にいる地域の子どもたちはいいのですけれど、そういうところでも、過疎化の影響を子ども達に与えてしまうということですね。よく言われるのが、そういうのがないから域外に移住しますという方々がいて、そういったことにも、地域移行というのが、まちづくりの面でも、プラスになればありがたいなと思っはいるのですけれど、しかしながら、最大の課題は指導者の確保。かつ、その指導者の方に過大な負担をかけるのは望ましくない。</p>

前田委員	<p>指導者の件ですが、娘婿が伊万里市にいますので、今まで小学校だけだったのが、中学校も来てくれと言われてます。まだ子どもが小さいから大変なのに、土日はほとんど家にいなくて子どもがかわいそうで。指導者のライフスタイルも考慮し対応していただかないと。先ほどの市役所の関係の人たちも出て行かないとなくなると、受け持つ方のライフスタイルがうまく廻るようにやっていただきたいなと思います。</p>
市長	<p>私も正直、部活動の地域移行というのが俎上に挙がってきたときに、地域の皆さんも土日は休みだよなと思ったわけです。サラリーマンの方々とかは土日に休むわけですね。当然、前田委員が言われるように、家族サービス、家族とともに過ごす時間というのも土日なのですね。そこに、さあ地域移行しますからやってくださいとなった時に、そういった事情等がなく、自分はもう子育ては終わったのでできますからというベストなタイミングの方がいらっしやればいいのですが、そうはいかないのかなと思いますね。</p>
吉住委員	<p>私は今、佐世保の高校生とかを LINE で指導しています。動画が送ってきて、その動画を見て、こうした方がいいとかの指導をしています。練習方法とかも LINE で指示しています。高校総体前とかは大変でした。</p>
市長	<p>我々が思いつかなかった視点ですね。今の子どもたちはそういった形でも充分できるのかもしれないですね。いずれにしても、冒頭にお話がありました離島半島地域については、県としても少し緩やかに移行をとるという考えもあるみたいですから、今出していた課題を、どのように解決しながら、スロースタートを混乱なく行っていくことが大切だということを感じました。今後、アンケートをとられて具体的な中身が出てきてですね。また機会があれば、そういった点でお話をいただいて、今日いただいた我々が課題だなと思っているところに、こういった解決法が見つかりましたということができればいいなと思っています。やはり、子どもたちが少子化だからできないとかいうのを少しでも解消できるような環境づくりをやっていければいいなと思った次第です。皆様からほかにご意見等はございませんでしょうか。よろしければ、あとは事務局の方にもう一度戻したいと思います。</p>
教育総務課長	<p>次回の総合教育会議のことですが、大体11月頃にアンケートの結果がでると思いますし、新たな課題の提案があるかもしれないので、11月頃を考えておりますので、近くなりましたら、お示しいたしますので、よろしくをお願いします。</p>
市長	<p>非常にこの課題は改めて難しいなと実感したところでありまして、今後の推移を総合教育会議の中でご報告いただき、議論できればいいなと思います。今日は本当に熱心にご議論いただきありがとうございました。</p>

